



グレタさん世界動かす

最近の巨大な台風や夏の異常な暑さから、私たちは地球気候変動（地球温暖化）の問題の深刻さを感ずることが出来る。何とかしなければいけないと思っている人も多いだろう。しかし、現在の私たちが感じていることは、ほんの序の口にしかならないようだ。専門家の方々の書いたものを読むと、このままの状態を放置しておくと、2050年には産業革命の時代よりも約2度、平均気温が上がるようだ。2度といってもぴんとこないかもしれないが、温度が2度上がれば、考え得るあらゆる

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

る恐ろしいことが起る。北極の水が解けて海水面が上がり、低い土地は海の底に沈む。台風はさらに強さが増し、いまとは比べものにならないような被害が頻発する。温暖化によつて気温が上がるので、日本でもマラリアなどの病気が広がり、農業にも深刻な影響が及ぶ。

題であるのだ。また先の話だし、自分の世代には大きな影響はない。そう考える無責任さが地球温暖化問題への対応の遅さの原因ともなっている。将来世代はいまの政策には影響力がない。将来の世代にとつて重要な環境問題への対応は現在の世代が決める。政策を決める世代と

将来世代の声 政治変える力に

そうは言っても、まだ40年も先の話ではないか。何となくそう考えている人も多いようだ。私なども、2050年に生きていく可能性はあまり高くない。要するに地球気候変動の問題は、私たちの世代の問題であるというよりも、私たちの子供あるいは孫の世代の問題

その結果の影響を受ける世代の問題にギャップがある。これが地球気候変動の問題を難しくしている。そう考えていたら、将来世代が声を上げ始めた。テレビや新聞で見聞きした人も多いかもしれないが、スウェーデンの16歳の環境活動家グレタ・トゥーンベリさんが拳

げた声の世界を動かし始めている。彼女の動きに刺激され、世界の多くの地域で高校生などの若者が、地球環境問題に対して大きな声を上げ始めている。のりりくらりと本格的な対応をしようとしないう政治家を突き上げるような激しい批判もしている。

将来世代が現在のわれわれに届きたいのは、地球環境の問題だけではない。医療や介護でお金がかかるので政府の借金を増やすのはやむを得ないという現在の政策は、間違いなく将来世代を不幸にするものだ。こうした問題についても、若者にはもつと厳しい批判をしてほしいものだ。環境でも社会保障でも、より多くの若者が声を上げれば、それがさらに多くの問題に広がり、より活発な議論につながるはずだ。

こうした若者の声は、世論を変え力となりつつあるように見える。世界中の多くの地域で若者のデモが起きるといふことは、多くの若者が自分たちの未来の地球の姿に強い危機感を持っているからだろう。将来世代の声は、政治には届かないと思っていたが、若者が真剣に声を上げれば、政治を変える力となる。

不幸にする問題 批判を

日本ではこうした若者の活動が

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。